



発行所：日本合板商業組合

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-5-4

TEL：03-5256-9080

https://www.nichigoshonet.jp

e-mail：jpwa@oboe.ocn.ne.jp

Japan Plywood Wholesalers Association

TOPIC 1 | 住宅・建築業界でBIM活用拡大 50%生産性向上などを実証

住宅・建築業界で、3次元の建物のデジタルモデルであるBIMを活用して、労働力不足の解消、脱炭素化に結び付けていこうとする動きが活発化している。

東急建設と野原ホールディングスは、10階建ての東急虎ノ門ビル増築工事において、乾式壁に関わるBIMプレカット施工の検証を行った。2階、3階、7階については、従来通り現場で採寸を行い、搬入した軽量鉄骨(LGS)乾式壁下地材及び、石膏ボードを現場で加工。一方、4階、5階、8階については、野原ホールディングスの精密プレカットBIMモデルを用いて、LGSと石膏ボードをプレカットし、各フロアに搬入して施工した。検証の結果、プレカット施工により、従来施工に比べてLGSの組込や石膏ボードの

貼り作業時間が30～50%減少。また、精密プレカットBIMモデルで建材数量を正確に把握でき、従来に比べて発注量に対する現場廃材量(CO2重量%)を4.6%削減できた。

建物の維持管理フェーズでBIM活用を進める動きも出てきている。三谷産業とUR都市機構は、「レーザースキャナを活用した点群データの取得およびBIMデータ作成」に関する共同研究を行った。URが所有する団地の中層・高層建物(5～14階程度)を対象に、地上固定式のレーザースキャナを用いて俯瞰的な位置から直接点群データを取得する方法を検証。従来の方法に比べ、レーザースキャナを用いて取得した点群データにより建物形状を把握する方法が、効率や精度の面で有効であることが分かった。

TOPIC 2 | ZEHの仕様基準案まとまる

国土交通省、経済産業省が、ZEH(ゼロ・エネルギー・ハウス)の仕様基準案を新たにまとめた。

省エネ基準については外皮及び一次エネルギー消費量(設備)に関する仕様基準が定められているが、ZEH水準については性能基準のみが定められている状況で、容易な評価・判定ができない。このため容易に判断できる仕様基準の策定が求められていた。

今回の仕様基準案は、ZEH水準の省エネ性能(誘導基準等)の適合確認が可能となる仕様基準(誘導仕様基準)を設定するというもの。

案では外皮は、基準策定モデル住宅を前提に、熱損失の多い開口部や面積の広い壁を優先的に断熱化。設備については、誘導仕様基準に適合する外皮性能を持つ基準策定モデル住宅を前提にBEI \leq 0.8となる高効率な設備仕様案とした。

住宅のさらなる省エネ性能向上へ向け、その水準のベンチマークとなっているのがZEHだ。低炭素建築物や長

仕様案に基づく外皮仕様例

5～7地域 木造軸組工法の戸建住宅 U_A=0.60

屋根	高性能グラスウール32K相当200mm厚以上
天井	高性能グラスウール16K相当168mm厚以上
壁	高性能グラスウール16K相当105mm厚以上
窓	アルミ樹脂複合サッシ・Low-E複層ガラス(G14)
ドア	金属製の枠・金属製フラッシュ構造の戸
外気床	高性能グラスウール32K相当119mm厚以上
その他床	高性能グラスウール32K相当77mm厚以上
基礎壁(外気側)	押出法ポリスチレンフォーム3種48mm厚以上
基礎壁(床下側)	押出法ポリスチレンフォーム3種20mm厚以上

期優良住宅の認定基準のZEH水準への引き上げ、また2030年度以降の新設住宅のZEH水準の省エネ性能の確保などが予定されている。

仕様基準の策定により計算に不慣れな設計者などの利用が見込めること、性能向上計画認定、低炭素建築物、補助金などの誘導措置に関する適合確認の簡素合理化などにもつながることが期待される。2022年秋にも施行する見通しだ。

今知りたい情報がここにある

住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/